

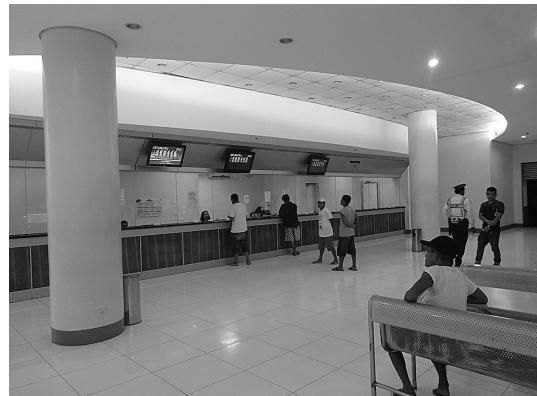
世界旅打ち気分

●第27回・サンタアナ

須田鷹雄



熱心なファンのみが
本馬場入場の様子を見守る



すっかり綺麗になった新サンタアナの穴場付近



旧サンタアナ競馬場のスタンド
(2007年当時)

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
#グリーンファーム会報#2020年7月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

この連載も3年目に入り、さすがに筆者の海外旅打ちネタも在庫が減つてきている。数えたところこれまで約150場の海外競馬場に行っているので単純計算だと1回2~3場を消費しても4~5年はもつことになるが、あまり特徴的な競馬場というのがあるので、なかなかその計算通りにはならない。過去の原稿ファイルを見てどこをまた扱つていなかつたかな……と考えていたところ、18年9月にフィリピンのメトロマニラターフクラブを扱い、マニラ近郊にある残り2場はまだ扱っていないことに気づいた。メトロマニラターフクラブのときに「フィリピンの競馬事情について」書いたので、当時と重複する内容もあるが、容赦いただきたい。逆に、当時と事情が変わった面もある。

マニラ近郊にある残り2つの競馬場は、サンタアナ競馬場とサンラザロ競馬場。もともとはこの2場が1週おきに月々金開催を行っていた。そこに3場めのメトロマニラターフクラブがオープンし、全盛期は3場のいずれかで毎日開催が行われていた。ところが今回確認したところ、3月下旬以降新型コ

かつたが、最終的に日本のディープ由来であろうということになった。というのも騎手が出てきたら勝負服がクールモアのマイケル・テーパーさんと同一だったのだ。海外競馬通の馬主が楽しんでいたのに違いない。

いまとなって悔やまれるのは写真だけでなく、食事についても。取材で行ったため主催者サイドに誘われ会議室のようなどこでクラブメンバーと食事をする」といふたが、正直などこかスタバ、ドドンの馬主が楽しんでいたのに違いない。

写真で振り返ると場内には「ラギントスカンティーン(ラギント食堂)」といふお店があり、蒸したティラピアや揚げ鶏など、15種類ほどのおかげから選んで注文する方式になっていた。いまにして思えば、こひはせひとも体験しておきたかった。旧競馬場の話が長くなつたが、面白みに欠けるところがあるのだ。まずは場所だが、マニラの中心部から南に1時間半ほど車で行つたところにある。距離としては55

kmほどなのだが、高速と言いつつ一般道のような道なので時間がかかる。R-1といふ高速を南下し、サウロゴグというバス停から山側に入つて数キロ。タガログ語が話せないと自力到達はおそらく困難で、マニラから運転手付きレンタカーレンタルは珍しいことではなく、値段もそう高くないを利用したほうがよい。

スタンド、特に内装は旧サンタナとはくらべものにならないほどきれいになつた。自分で統一されたピカピカのベッティングホールは、競馬先進国との比較でも遜色のないものである。ただ、我々がアジアの競馬場に求めるものは「うわり」と雜といふか、作つすぐのわりに汚れている感じがある。3枚目の写真がそれにあたるが、おそらくは雨風が激しいために傷むのも早いのではないかと思われる。

アジアの競馬ファンはハドックを見て予想するのが好きだと言われるが(日本・香港・韓国・シンガポールは特にその色彩が強い)、フリー

ピンはそこまででもないよう、スタンドを離れずに馬券を買うファンが多い。そのため、スタンドと「1スの間のスペースはどうしても寂しい雾開気になる。フィリピンはデータの充実した競馬新聞もないし、突き詰めて予想するというよりはただ賭けられればよいのかもしれない。

スタンドのサイズは旧競馬場時代に比べるとだいぶ小さくなつた。最寄りの町がそぞろの大きさで、クドナルドなどの有名チェーンが普通にあるような町)とはいえ、さすがにマニラ中心部とは集客力がないふ違つて仕方ない。

観客の数はヒラ開催で数百人というといふだろうが、そのくらいの人数でも場内にお店を出してくれる人がいるのはアジアのようだ。食堂的なスペースがひとつとお菓子などを売る売店がひとつある。食堂のまつは旧競馬場時代と同様、おかげを選んでオーダーする方式。種類は7~8種類になつたが、おかげを選んでオーダーする方式。種類は7~8種類になつたが、おかげを選んでオーダーする

ロナウイルスで開催が止まつてるのは仕方ないとはいふ。昨年の段階で月6~12程度の開催に減つているようだ。馬匹資源の問題か、あるいは、ちよと心配になるところである。一方、かつては存在しなかつたスマホによる投票が導入されているので、それによる売り上げで業界を振興してほしいといふだ。

もともとフィリピンは小規模な場外が無数にあり、客筋からして観光客などは立ち寄りがたい雰囲気だった。たた時代の流れで現金投票は廃れる方向にあり、スマートフォンしていく必要がある。タクシードライバーは全く進んでいない(そもそも場外馬券が無い)ので、それに比べると未来もありそうだ。

さて、今回は先述した2競馬場のうち、サンタアナ競馬場のほうを紹介したい。

もともとサンタアナとサンラザロはマニラの都心部にあつたのだが、経営難のためかその一等地を売り払い、郊外に移転した経緯がある。私は幸い移転前もサンタアナのほうは訪れる機会があつたので、旧競馬場のほうから話をしてもうだ。

観客の数はヒラ開催で数百人というといふだろうが、そのくらいの人数でも場内にお店を出してくれる人がいるのはアジアのようだ。食堂的なスペースがひとつとお菓子などを売る売店がひとつある。食堂のまつは旧競馬場時代と同様、おかげを選んでオーダーする

みたい。

調べたところ、旧サンタアナを訪れたのは2007年のこと。当時のデジカメといふこともあり、撮った写真のピントがいまひとつなものばかりのが悔やまれる。ここには競馬場の名前が書かれたスタンドの様子をあげておく。手前にはバーカクシーが止まっているが、日本人が泊まるホテルも多いマカティ中心部から、バイクで5分10分といつ好立地だつた。

競馬場のスタンドはその時点では、それでも場外馬券が無い)の上級馬の碑が立つていていたのだが、おそらく開場時とままだつたのではないだろうか。

売店もいくつかあるのだが、よく見るとタバコが1箱単位でなく1本単位で売られている。そういう買いたしかできない人々がファン層といふわけだ。

覚えているのは、「ディープインパクト」という2歳馬が走つていたこと。日本のディープインパクトが三冠を達成した年の生まれなのでそこからどうたのか、はたまたまたまかづつたのか最初は分からなかつたが、

ただ賭けられればよいのかもしだいふ違うので仕方ない。

代に比べるとだいぶ小さくなつた。最寄りの町がそぞろの大きさで、クドナルドなどの有名チェーンが普通にあるような町)とはいえ、さすがにマニラ中心部とは集客力がないふ違つて仕方ない。

観客の数はヒラ開催で数百人というといふだろうが、そのくらいの人数でも場内にお店を出してくれる人がいるのはアジアのようだ。食堂的なスペースがひとつとお菓子などを売る売店がひとつある。食堂のまつは旧競馬場時代と同様、おかげを選んでオーダーする